社 会 教 育

～人づくり・つながりづくり・地域づくり～





令和7年度
福岡県社会教育関係事業《事例集》

福 岡 県 教 育 委 員 会

地域住民の学習ニーズが多様化する現代社会において、社会教育は、生涯にわたる学びの機会を提供し、県民一人ひとりの自己実現と地域社会の活性化を支える重要な役割を担っており、その果たすべき役割はますます大きくなっています。

本事例集は、県内各地域・各施設における社会教育の特徴的な事例について集約したものです。今後、本事例集を参考として各種事業への理解を深めていただき「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現」のために御活用いただければ幸いです。

結びに、本事例集の作成にあたり、各市町村教育委員会等関係者の皆様をはじめ、教育事務所及び社会教育施設の御協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

令和8年3月

福岡県教育委員会

（社会教育課）

目　次

□地域学校協働活動事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

学校の働き方改革・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

（赤村、築上町）

放課後の学習支援・体験活動・・・・・・・ 4

（水巻町、筑前町）

地域総がかりで取り組む不登校児童生徒支援・・・・・・ 6

（宗像市、大牟田市）

□読書好きを育む環境づくり応援事業・・・・・・・・ 8

市町村補助事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（須恵町、宮若市、朝倉市、柳川市、飯塚市、みやこ町）

委託事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

・朗読と音読で本の楽しさを伝える実行委員会【直方市】

・遠賀町読書活動推進イベント実行委員会【遠賀町】

・大牟田市本が好きになるきっかけづくり実行委員会【大牟田市】

・リブリオ行橋販わいの会【行橋市】

・きっと本が好きになるビブリオバトルin苅田【苅田町】

□体験活動に関する事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

（春日市、遠賀町、大刀洗町、八女市、嘉麻市、筑前町）

□教育事務所主催研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

・福岡教育事務所

・北九州教育事務所

・北筑後教育事務所

・南筑後教育事務所

・筑豊教育事務所

・京築教育事務所

□県立社会教育施設事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34

・社会教育総合センター（調査・研修班）

・社会教育総合センター（体験活動推進班）

・英彦山青年の家

・少年自然の家「玄海の家」

・ふくおかきっずアドベンチャーキャンプ

・図書館

・美術館

・青少年科学館

地域学校協働活動事業

「地域学校協働活動」とは、地域住民、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体でこどもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

福岡県では平成２９年度から地域学校協働活動事業を推進しており、県内各地で多様な活動が展開されています。

具体的には、授業の補助や環境整備、登下校の見守りなどの学校支援、放課後の補充学習などの学習支援や地域未来塾、遊びやスポーツ体験などの体験活動と、地域の実情に応じ、その内容は多岐にわたります。

令和７年度からは「地域総がかりで行う不登校児童生徒支援」として、地域学校協働本部の仕組みを活用し、不登校児童生徒が自分のペースで過ごすことができる「サポートスポット」の設置を推進しています。

今後も本事業をとおして、こどもたちの健やかな成長に資するとともに、これまで以上に学校、家庭、地域の連携・協働を進め、地域全体でこどもを育てる体制を整えていきます。





赤村地域学校協働活動本部

活動内容

◆特別に支援を要する児童への学習支援(月～金、2時間程度)
◆学習に集中できる環境整備



【学習支援の様子】



【学習支援の様子】

ここがポイント

◆特別支援学級に支援員が入ることにより、担当教諭の業務負担が軽減された。

◆支援員がスムーズに児童の支援に入ることができるよう、前年度に引き続き、不登校・ひきこもりサポートセンターを設置している福岡県立大学の学生に協力をお願いした。

◆児童との関係性をスムーズに築けるよう、赤村で不登校支援員として活動されている方に協力をお願いした。

◆学校との連携が上手くいくように、学校長が軸となり支援員との調整を行った。

関係者の声	◎成果△課題
【推進員】 ▶年々、特別支援学級の人数が増えてきており、支援員が授業に入ることにより、授業を進めやすくなり、担任の業務負担の軽減につながり、働き方改革につながっているように感じる。 【教員】 ▶特別支援学級ではそれぞれサポートが必要な児童が多く、支援員がサポートしてくれると授業を進めやすくなり、業務負担の軽減につながったように感じる。 【支援員】 ▶コミュニケーションを大切に明るく優しく話しかけるよう心掛けることで、児童の支援に入りやすく感じる。 ▶集中力が続かず、離席をすることもあるが、声のかけ方で児童の取り組み方が変わることを感じた。一生懸命に取り組む姿を見守りながら補助を行っている。	◎昨年度までは、月に数回の支援を行っていた。年々、特別支援学級の児童人数が増加しており、１クラスあたりの人数が５人となり、複数学年の児童がいる中、各学年の授業を同時で進めることが困難な状態である。今年度から、毎日２時間支援に入ることができているため、より担任教諭の業務負担が軽減され、働き方改革につながった。 △来年度以降も、特別に支援を要する児童への学習支援を継続して実施するために、引き続き福岡県立大学や地域の方との連携を行い、支援員を確保する必要がある。

【推進員の人数】
　1人
【参画した支援員】
　15人(延べ人数、260人)
【担当課】
　赤村教育委員会教務課
　☎:0947-62-3003



築上町地域学校協働活動本部

活動内容

◆朝の児童･生徒見守り活動(年３回)
◆各中学校区(椎田中･築城中)一斉清掃活動(年1回程度)
◆地域の特色を活かした協働活動の実施(各小･中学校1～3 回程度)



【椎田中校区一斉清掃の様子】

ここがポイント

◆「朝の児童・生徒見守り活動」に多くの大人が通学路に立つ仕組みづくり（年３回）
・築上町地域学校協働本部員だけでなく、保護者や地域住民を含む町民への呼びかけ
◆清掃活動を通しての、学校を核とした地域づくりの推進
・各中学校区において、推進員による小・中・高校、自治会及び保護者等への呼びかけと交流の促進
◆体験活動を通しての郷土を知り、郷土について考える機会づくり
・地域の特色を活かした産業(米、あさり、スイートコーン、きくいも)を児童・生徒が役場の担当課や企業と連携
◆地域学校協働活動の質を高めるための取組
・年３回の推進員会議にて推進員相互の情報交換の場の設定。各種研修会への積極的な参加の呼びかけ
推進員同士の関係を密にするため、校区を越えた協働活動の広がりを共通の目標に据えた協議の実施
◆学校運営協議会の熟議が地域学校協働活動にスムーズに活かされる体制づくり
・全小中学校に１～２名の推進員を配置。推進員の学校運営協議会委員への所属



【築城小学校合同熟議の様子】

関係者の声

【推進員】
▶協働活動では、地域の方々と児童・生徒の笑顔が溢れています。この姿を楽しみに活動を続けていきます。
【教員】
▶協働活動を通して、勤労の大切さや地域の自然を学んだり、自然の恵みのありがたさを感じたりしています。
【こども】
▶ちくじょう祭りの出店内容を合同熟議で話し合い、出店した。自分たちの意見が生かされて、楽しく活動できた。

◎成果△課題

◎各学校で、こどもと大人の合同熟議を開催しており、こどもたちと地域の方々との交流が深まるとともに、協働活動の充実につながっている。
◎こどもたちは、協働活動を通して、貴重な体験をし、充実した学びを得ている。また、参加した地域の方も生きがいを感じており、地域の活性化に寄与している。
◎放課後の見守り活動や年間を通した読み聞かせなど、地域の協力により、教員の負担軽減につながっている。
△協働活動をより広げていくことが課題であり、賛同していただける地域の方を増やしていく必要がある。
△交流の場の設定を促進し、校区を越えた活動や町全体を対象範囲とした活動の推進につなげる必要がある。

【推進員の人数】
13 人(全員、学校運営協議会委員)
【築上町地域学校協働本部員】
20 団体(延べ人数、605 人)
【担当課】
築上町教育委員会生涯学習課
☎:0930-56-0300



夏休みチャレンジャー

活動内容

◆毎年、夏休み期間中、水巻町中央公民館で小中学生を対象に、手芸や工作、運動など幅広い活動を開催している。

◆今年度は、かぎ針編み（アクセサリー・シュシュ）・革細工（キーホルダー）マット運動（連続３回講座）・絵手紙（スイカ・かき氷）など７コースを実施



【サポートの様子】



【サポートの様子】

☞ここがポイント

◆ご近所せんせい養成講座で学んだ受講生がサポーターとして、その知識や経験をこどもたちに伝え、実践の場を持つことで学びを還元し、やりがいにつなげるために企画された事業である。

◆町内の小中学生に、様々な体験や創作活動を通してこども達にとって有意義な夏休みを過ごせるように、目標に向かって試行錯誤することで粘り強く取り組み、達成感を味わうこともねらいとしている。

◆地域の住民や公民館サポーターがボランティアとして参加することで、世代間の交流を通した健全育成を目的としている。

◆サポーターは 22 名登録しており様々な研修を積み重ね、参加したこどもたちをサポートしている。また、公民館や町内の施設・地域交流の場でサポーターとして活躍してもらうため、年間を通した活動を行っている。

関係者の声

【サポーター】
▶事前に養成講座で学んだことをいかすこともでき、こども達とふれあえたことがとても楽しかった。

【講座担当講師】
▶サポーターのおかげで、１人では難しかった人数の受け入れも可能となり、全員時間内に作品を完成できた。

【こども】
▶楽しかったからまた参加したい。

◎成果△課題

◎
・養成講座で身に付けた技術や指導方法を生かし、サポーターがこども一人ひとりを丁寧に支援できた。
・講師の負担が軽減され、低学年と高学年を分けずに活動を行うことが可能になった。
・こどもたちはリラックスして活動に取り組み、世代間交流を楽しみながら学ぶ姿や、笑顔が多くみられた。

△
・サポートが充実したことで作業が予定より早く進み、活動全体の時間配分や、内容の調整にさらなる工夫が必要となった。

【推進員の人数】
２人
【公民館サポーター（地域住民）】
22 人（延べ人数 43 人）
【担当課】
水巻町教育委員会生涯学習課
☎:093-201-4321



小・中学校アフタースクール事業（学習支援）

活動内容

◆小学校アフタースクール（学習支援）小学校3校
放課後の教室を活用し、小学１、２年生を対象に学習支援を実施（年65回）

◆中学校アフタースクール　中学校2校
放課後の教室を活用し、学習支援を実施（「数学・英語ｺｰｽ」「英会話ｺｰｽ」を設置）


【小学校アフタースクールの様子】


【中学校アフタースクールの様子】

ここがポイント

◆小学校アフタースクール（学習支援）では、学校と連携し、ボランティア講師及び地域ボランティアスタッフによる学習支援を行っている。地域ボランティアスタッフは、丸付けや声掛け、見守り等を行っている。

◆中学校アフタースクール「数学・英語コース」では、高度な指導力及び豊富な経験を有する講師の指導により学習への意欲喚起や家庭学習の定着を促し学力向上を図る。また、「英会話コース」では、ALT との実践的な会話練習を通じ英語のコミュニケーション能力の向上を図る。講師の他、地域学校協働活動推進員や地域ボランティア支援スタッフがおり、スタッフがサポートとして教室に入る等、きめ細かな支援を行っている。

関係者の声

【小学校ボランティアスタッフ】
▶こども達の成長が感じられてうれしい。地域のこども達の役に立つことができ、やりがいを感じる。
【中学校ボランティアスタッフ（大学生）】
▶たくさんの生徒と関わることによって、自分の価値観や視野が広がり良い経験になっている。
【中学校生徒】
▶苦手なところを少しずつ克服できるのでとてもよかった。（数・英コース）
▶英語の発音などを学べて、それを学校で活かせるので楽しい。（英会話コース）

◎成果△課題

【小学校】
◎個別で関わることにより、こども達が「わかった」という喜びを味わい、学習意欲向上につながった
△スタッフ・ボランティアの人材確保
△学校との連携に工夫が必要
【中学校】
◎生徒が進んで講師に質問する等、意欲的に学ぶ姿が見られる。英検受験前には英検対策授業を実施できた
◎地域学校協働活動推進員と連携し、生徒、保護者及び講師の個別の要望等に適切に対応することができた
△講師・スタッフの人材確保
△参加生徒の意識向上と学力向上

【推進員の人数】
7 人（内、学校運営協議会委員 6 人）
【参画した地域住民】
55 人（延べ人数、851 人）
【担当課】
筑前町教育委員会
教育課　　☎:0946-22-3385
生涯学習課☎:0946-24-8762



不登校児童生徒を支援するサポートスポット事業

活動内容

◆【事業名】正助ひろば
　＜内容＞コミュニティ・センターでの見守り活動
◆【事業名】むなかたこども大学サポートスポット
　＜内容＞不登校児童生徒を対象としたキャリア教育事業(年間6回)
◆【事業名】城山中学校地域連携室サポートスポット
　＜内容＞学校敷地内の地域連携室(地域と学校が共用する場所)での見守り活動
◆【事業名】河東西小学校サポートスポット
　＜内容＞校内サポートルームでの見守り活動



【むなかたこども大学サポートスポットの案内文】

ここがポイント

◆コミュニティ・センターや学校敷地内の地域連携室、学校の別室など、さまざまな場所に地域住民が運営する不登校児童生徒の居場所を開設
◆サポートスポットの運営には、サポーターとして地域学校協働活動推進員、民生委員、在校生の保護者、大学生、企業人など多様な地域住民が参画
◆サポーターの中に宗像学園運営協議会委員を務めている人がおり、学校との連携・協働を推進
◆本事業の担当課職員が市教育委員会主催で定期的に行っている不登校児童生徒の支援者会議に参加しており関係各課との連携・協働を推進

関係者の声

【サポーター】
▶不登校児童生徒と関わりたいと思っていた。学校に行きづらい、家庭に居場所がない等、悩んでいるこどもに寄り添い、少しでも力になっていければと思う。

【教員】
▶まだ始まったばかりだが、学校だけで抱え込まず、地域総がかりで見守る仕組は、学校・家庭・地域にとって意味のある取組になると考える。

◎成果△課題

◎不登校の現状を学園運営協議会で情報提供して取組を協議するなど、不登校児童生徒を支援する取組に対する地域住民の関心が高まっている。

△市主催の既存事業と県のサポートスポットとの役割を明確にしていく。

△地域人材の強みとこどものニーズをマッチングさせる必要がある。

【参画した地域住民】
　のべ　450人
【担当課】
宗像市教育委員会地域教育連携室
☎:0940-36-1169



公民館を活用したサテライトスペース「ぱすてる」の取組

活動内容

◆学校に行きづらさを感じている児童生徒の居場所づくり
◆コミュニケーションスキル等を身につけるトレーニング
◆児童生徒の興味関心に沿った学習支援
◆学校職員以外の人たちとの交流



【料理活動の様子】



【支援者との交流の様子】

ここがポイント

◆大牟田市教育委員会と一般社団法人「OMUTA BRIDGE」が大牟田市中央地区公民館で共同運営しています。
◆スクールソーシャルワーカーが中心となって、サテライトスペースを利用するかどうかについて学校や保護者と話し合いを行っています。
◆サテライトスペースを利用している児童生徒に合った学びは何かについて、支援者たちで協議して様々な活動に取り組んでいます。
・対話を重視したカードゲームやボードゲーム　・生活していくためのスキル向上を重視した調理実習
・地域の支援者との交流を重視した折り紙や昔遊び活動　・自分の興味や関心に合わせた学習
・ハロウィンやクリスマスに合わせた交流会の企画運営　等
◆地域の支援者や高校生のボランティアなどの協力を得て、児童生徒の活動を支えています。
◆学校に登校できるようになった児童生徒も利用することができるように、１４：００から１８：００まで開所しています。

関係者の声

【学校】
▶平日もほとんどの時間を自宅で過ごしていた児童が、外に出て様々な人と交流する機会となっていて、非常にありがたい。
【支援者】
▶自分と似た状況の児童生徒や、様々な大人との関わりが増えることで、コミュニケーションスキルの向上につながっている。
【こども】
▶毎週この時間を楽しみにしている。みんなに会えていろいろな気持ちを話すことができる場所。

◎成果△課題

◎少しずつ利用者も増え、１回の利用人数は平均で８名程度になってきた。
◎ほとんど言葉を発することのなかった児童生徒が、周囲の人たちと会話できるようになったり、一緒に活動したりできるようになってきた。

△利用人数の増加とともに、多人数の場所を苦手とするこどもたちが利用しづらい雰囲気が感じられてきた。
△支援スタッフの増員を図るために、こどもの状況に対応することができるための養成講座や研修等に力を入れていく必要がある。

【推進員の人数】
2人（スクールソーシャルワーカー）
3人（サポートスタッフ）
【参画した地域住民】
15人（延べ人数、約150人）
【担当課】
大牟田市教育委員会 学校教育課 指導室
☎:0944-41-2861

読書好きを育む環境づくり応援事業

読書は、本の中に広がる世界に触れることで、自ら知ることの喜びや学ぶことの楽しさを味わったり、自己の生き方について考えたりすることができます。読書を通じて、こどもは読解力や想像力、思考力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることが期待できます。このような資質・能力は、近年の情報化や国際化の急激な進行、社会構造や雇用環境の大きく、そして急速な変化等、予測が困難な時代において、ますます重要となっております。

しかしながら、福岡県では、平日における読書を「全くしない」と答えた割合（不読率）は、全国と比較してやや高く、学校段階が進むにつれて、高まる傾向があります。

そこで、発達段階ごとの読書活動の取組を体系的・継続的に実施するとともに、こどもの自発的な読書を促す家庭・地域の読書環境を整備・強化する市町村を支援することで、こどもの読書習慣の形成・定着とこどもを取り巻く読書環境の充実を図りました。



【読書好きを育む環境づくり応援事業:市町村補助】

読書好きを育てる！須恵町の多様な取組

事業目的

◆対象者や内容、実施期間など多様な講座を開設し、各年齢層に応じた取組で読書好きを育む

活動内容

対象者	事業名と事業内容
乳幼児	◎ブックスタート事業 4カ健診時に絵本を進呈 ◎あかちゃんおはなし会 第3木曜日に読書ボランティアによる読み聞かせを実施
小中学生	◎読書リーダー養成講座 読み聞かせの手法・POP作成・図書館の利用方法等について、講義演習を実施(2日間×2回) ◎POP作り 実際に図書館で使用する広報用POPを作成し展示 ◎ボードゲーム大会 ボードゲームを入口として、関連する題材の本を紹介
保護者	◎落語会 落語を入口として、関連する題材の本を紹介



【ボードゲーム大会の様子】



【落語会のプログラム】

【主な実施場所】
須恵町立図書館・保健センター
地域活性化センター「オイコス」
【参加者数】
約330名
【担当課】
須恵町教育委員会　社会教育課
☎:092-932-6364

担当者の思い

令和7年度は、須恵町立図書館開館30周年の記念すべき年でした。普段は、図書館を利用されない方にも図書館に来館していただける「きっかけ」を作り、もっと身近に感じてもらえたらと思い事業を実施しました。現代社会は、デジタル機器に囲まれた日常生活の中、紙の本を手に取る機会が減少しています。いろいろな事業を通して、図書館の魅力に気づいたり、再発見したりしてもらえたらと思っています。

◎成果△課題

◎読書リーダー養成講座での「POPづくり」で製作したPOPを館内に本と一緒に展示したことで、多くの方が紹介された本を手に取り、本を借りていく姿が見られた。
◎ボードゲーム大会を通して、本をテーマに参加者が活発にコミュニケーションをとる姿が見られた。
△「シニア世代向け」の事業を開発していく必要がある。

『理科読』で飛ぶしくみを体験しよう！

事業目的

◆科学的な読物を読み、それに関連した実験を行うことによって、科学に親しみ、興味を持ってもらう。
◆関連する本の読み聞かせや紹介を行い、科学絵本や科学的な読物などの貸出を推進する。

活動内容

《実施日・実施会場の打ち合わせ》
①3月から月1回講師と打ち合わせ
②テーマを決め、それに添った実験内容、読む絵本を選書する。
③プログラムを組む
《理科読講座の準備》
ホームページや広報誌で周知、材料の用意、紙飛行機の試作
《当日》
①絵本の読み聞かせ（導入）
②工作&実験1（タコトンボ工作）
③テーマに添ったブックトーク
④工作&実験2（アルソミトラの種）
⑤アンケート記入
《ふりかえり》
イベント報告書の作成、意見交換



【工作中の様子】



【実験中の様子】

参加者の声

▸いろいろ飛び方が違っていて、不思議だと思った。予想があたってうれしかった。

▸試してみるのが一番。本の紹介と実験があってとても有意義だった。

▸作るのが楽しかったし、色々知ることができた。本の読み聞かせが楽しかった。

◎成果△課題

◎こどもたちが真剣に取り組み、先生のコツなども聞けて工夫していた。

◎親も参加なのでこどもたちも楽しそうだった。

△把握していた人数より小学生以下の幼児が増えており、準備していた数が足りなくなった。（今回は予備で補った）

【実施期日】
令和７年8月3日（日）
【実施場所】
宮若リコリス研修室
【参加者数】
親子5組（こども10名、大人5名）
【主な参加者】
市内の小学生とその保護者等
【担当課】
宮若市教育委員会　社会教育課
☎:0949-32-3210

「おうちで楽しむふれあい遊び講座」朝倉市の取組

事業目的

◆家庭で楽しめる、ふれあいあそびや手あそびのやり方を知ることで、親子のふれあいのきっかけを増やす。
◆絵本の選び方や家庭での読み聞かせのやり方を知ることで、市民の読書活動をより有意義なものにするとともに、こどもの読書活動の推進を図る。





【読み聞かせの様子】

活動内容

《実施日・実施内容の打ち合わせ》
・対象は、0~3歳のこどもと保護者。
・親子で参加しやすいように土曜日の午前中に実施した。
・親子が家庭で楽しむことができるふれあいあそびや手あそびについて、実演を交えながら楽しんでもらった。

《当日までの準備》
・会場は、親子でゆっくり講座に参加できるように和室を選択した。
・1か月前から申込を始め、ポスター作製後、市内幼稚園等の関係各所に配布、周知を行った。
・講座で使用する絵本は講師が持参した。

《当日》
・開始 30 分前より受付開始。
・赤ちゃんの名前が分かるように名札を作成した。
・本の読み聞かせやわらべうたを実施した。
・シフォン布を使いながら、読み聞かせやわらべうたを歌うと、より一緒に楽しむことができた。
・親子で楽しむおもちゃ（たぬきのフェルト人形）の作成をした。

参加者の声

○こどもにとってどんな絵本がよいか、また遊び方等参考になった。とても楽しかった。

○本の大切さやわらべうた等いろいろ学べた。おんぶの大事さなども良く分かった。

○これからも絵本やわらべうたでこどもとたくさん触れ合っていきたい。

◎成果△課題

◎絵本の読み聞かせやわらべうたの大切さについて市民の方に実践を交えて知ってもらえる貴重な場となっている。
△絵本の読み聞かせやわらべうたの大切さについて知ってもらう良い機会になっているため、その後も継続的に家庭での読み聞かせをしてもらえる、また図書館を利用してもらえるような取組を関係部署と連携して充実させていくこと。

【実施期日】
令和７年９月６日(土)
【実施場所】
ピーポート甘木　和室
【参加者数】
33名
【主な参加者】
市内の乳幼児とその保護者
【担当課】
朝倉市図書館
☎:0946-22-3059



たのしい人形劇！柳川市の取組

事業目的

◆人形劇を通じて、読書や絵本に対する興味･関心を持たせ、図書館は楽しい場所という認識を持つことで、図書館への来館や読書活動への意識を高め、今後の継続的な利用につなげる。





活動内容

《実施日・実施会場の調整、依頼》
「からこま座」への人形劇上演依頼

《演目の決定》
①くらげのなかみをおしえておくれ
②長靴をはいた猫

「からこま座」
人形・イラスト・絵本などの製作および人形劇の上演をする　美術工房。2012 年東京の人形劇団より独立し、福岡県柳川市で旗揚げ。オリジナルの人形劇、ワークショップを各地で公演。

《広報活動》
市広報誌、市ホームページ、ポスター掲示、チラシ等の配布

《当日》
①会場設営　②受付　③上演　④写真撮影～人形とのふれあいタイム

参加者の声

▶知っているお話とオリジナルのお話もあり、どちらも楽しかったです。

▶昨年も参加させていただき、今年も楽しみにしていました。こどもはもちろん、大人も引き込まれ楽しく拝見しました。

▶こども向けのイベントをこんなに企画されているのを知りました。また、こどもと一緒に参加できるイベントがあったらぜひ参加したいです。

◎成果△課題

◎図書館に来館することで、たくさんの絵本等の存在を知ることができ、また、図書館での様々な取り組みの紹介ができた。

△夏休み期間中に、気軽に親子で参加できる人形劇という手法を用いたが、参加者にとって、読書活動に対する意識の向上に繋がるかが不明である。

【実施期日】
令和 7 年7月 27 日(日)
【実施場所】
柳川市立図書館　AVホール
【参加者数】
112名
【主な参加者】
小学6年生までのこども･保護者等
【担当課】
柳川市立図書館
☎:0944-74-4111



読書好きなこどもを育てる！飯塚市の取組事例

事業目的

◆こどもと保護者が時間をかけて向きあい、心を通わせあう環境づくり
◆絵本を通した交流の楽しさや大切さを「継続的に」伝えることで、読み聞かせの習慣化の継続･促進を図る
◆生き物とのふれあいを通して、読書の魅力を伝える

活動内容

《読書好きを育む環境づくり応援イベント》
タイトル:「おはなし会とふれあい動物園」
対象者：「3 歳から小学校 6 年生までの児童とその保護者」
内　容：生き物との交流を通して、読書の魅力を伝えることを目的としたイベントで、「アニマシオン」、「絵本の読み聞かせ」、「動物とのふれあい体験」を楽しんでいただく内容
ﾀｲﾑｽｹｼﾞｭｰﾙ：「アニマシオン（35 分）」「絵本の読み聞かせ（30 分）」「動物とのふれあい体験（30 分）」
広　報：広報いいづかへの掲載、市 SNS による情報配信、チラシ・ポスターの配布および掲示

参加者の声

《アニマシオン》
アニマシオンは初めての体験だったが、絵本の世界に飛び込んだような感覚で、こどもも楽しそうに参加していた。

《絵本の読み聞かせ》
小学生が実演した読み聞かせは、たくさん練習したのだと思うと感動した。声の大きさやトーンもちょうどよく、素晴らしい完成度だった。

《動物とのふれあい体験》
絵本に出てきた動物と実際に触れ合える内容が、関連性もあるという意味でとてもよかった。

◎成果△課題

◎家庭とは違う雰囲気の中、大勢で一緒に楽しむ読み聞かせ等を行ったことで、読書への興味を引き出すきっかけとなった。
◎絵本を介した親子間の交流が促され、有意義な時間を提供することができた。
◎こどもたちが主体的に参加する姿が印象的だった。

△読み聞かせやアニマシオンも長時間行うと飽きが生じるため、時間配分については改善の余地がある。
△今回の体験が、家庭での読書や図書館利用につながるよう、次回はさらに一歩踏み込んだ工夫を取り入れたい。

その他の活動

・市立図書館や商業施設にて「定例おはなし会」を開催している。
・市立小学校および中学校の児童と生徒を対象とした「家読の推進」を行っている。



【おはなし会とふれあい動物園の様子】



【定例おはなし会の様子】



【家読推進に活用したオススメ本リスト】

【実施期日】
令和 7 年3月15日(土) 10:00~12:30
【実施場所】
イイヅカコミュニティセンター
【参加者数】
81名(未就学児:27 名、小学生 19 名、保護者 35 名)
【担当課】
飯塚市教育委員会　生涯学習課
☎:0948－22－3274



読書好きなこどもを育てたい！みやこ町の取組

事業目的

◎夏休みチャレンジ教室「えっ？お蚕さんがやってくる？！」

◆実際に見る･触れる･作るなどの体験活動及び関連図書の読み聞かせを行うことにより、本に興味を持たせ、図書館の利用促進、こどもの読書活動の推進を目的とする。



【お蚕さんの講話の様子】



【繭を使ったストラップ】

☞ 活 動 内 容

◎お蚕さんについての講話と繭クラフトづくり教室　【講師:シルクライン　代表　林　久美子　氏(社会教育士)】

1 シルクキュレーター(蚕糸絹研究家)による講話

お蚕さんは「天の虫」と書き、何千年もの間、人間の中で飼われてきた昆虫で、お蚕さんを育て、繭を出荷することで農家の生活も支えられてきた。その後、製糸工場などで絹に変わっていく。

・「お蚕さんの成長の過程」：卵から、幼虫、そして脱皮を繰り返して蛹へと至ること（写真や動画で説明）
・「私たちの暮らしとの関わり」：身の回りには多くの絹製品（着物、ネクタイ、相撲の回し等）があること。
・「命の循環」：糸を取るために繭の中にいる蛹の命を奪うことになるが、その体も肥料や油などにするといった、命を大切にし、無駄なく使い、命を循環させる営みであること。

2 実際に生きたお蚕さんを見て、触って、繭を切って蛹になった姿を観察

3 繭の手触りを感じたりした後、繭を好きな形に切り、好きな色を塗って繭を使ったストラップを作成

4 図書館職員による関連図書「八方にらみねこ」(蚕をネズミから守るネコのお話)の読み聞かせ

参加者の様子・声

▶お蚕さんの話や、実物のお蚕さんや繭に、小学生だけでなく、保護者もとても興味をもって見ていた。

▶「今度は繭から糸になるところも見たい。」という声もあった。

◎成果△課題

◎講座終了後、お蚕さんの本を借りていく子や講師の先生に質問をする子もいて、もっと知りたい、調べたいと思ってもらえるようなとても良い講座であった。

△関連図書を紹介したが、後で確認できるようリストも配布した方がよかった。

【実施期日】
令和７年8月3日(日)
【実施場所】
みやこ町図書館(本館)
【参加者数】
14組･31名
【主な参加者】
小学生とその保護者
【担当課】
みやこ町教育委員会生涯学習課
☎:0930-33-1040



朗読と音楽で本の楽しさを味わう会

イベントの目的

◆赤ちゃんから大人まで、あらゆる年齢層のみなさんに本の楽しさを知ってもらうこと。
◆絵本・詩・物語・小説を音楽に乗せて届けることで、新たな視点で本の魅力を感じてもらうこと。

☞活動内容

《事前の活動》
・実行委員会を立ち上げ、「あらゆる年齢層への」という観点から❶「赤ちゃんと家族の絵本の会」、❷「ふるさとの詩人と詩を読みあう会」、❸「物語とピアノを楽しむ会」の３回の企画で多角的に実施することに決定した。

《イベント当日❶「赤ちゃんとご家族の絵本の会」》
・童謡・わらべ歌・手遊びなどを織り込みながら、赤ちゃん向け絵本のおはなし会を実施した（直方市子育て支援センター）。

《イベント当日❷「ふるさとの詩人と詩を読みあう会」》
・北九州を代表する詩人みずかみかずよさんの次女でありご自身も詩を書かれる水上さやかさんをお招きして、かずよさんの思い出と詩の朗読を聞き、後半は参加者全員で詩の読み合いを行った（直方市立図書館）。

《今後の活動》
・イベント❶❷を受け、「物語とピアノを楽しむ会」を実施する（ユメニティのおがた小ホール）。

参加者の声

▶こどもが絵本の世界に集中していた。
▶大型の絵本がよかった、よろこんでいた。
▶手遊びがとても勉強になりました、家でもやってあげたいと思った。

▶家族の愛にあふれたあたたかい会だった。
▶朗読やワークショップでみずかみかずよさんへの理解が深まりました。
▶詩を読んでもらうのが心地よかった。
▶詩を読むのはドキドキしましたが楽しかった。

◎成果△課題

◎ほとんどの参加者が「とても良かった」「よかった」と回答した。イベントを通じて、ふだんあまり接することのない詩の本や絵本を紹介することができ、本の楽しさを伝える一歩になったと実感している。音楽が本の世界を届けるために効果的であった。

△❶❷のイベントから❸「物語とピアノを楽しむ会」へと積みあげてゆく企画だが、より多くの方に参加していただき、本の楽しさを知ってもらうための集客が課題。



【赤ちゃんとご家族の絵本の会の様子】



【ふるさとの詩人と詩を読みあう会の様子】

【実施期日】
令和7年10月16日(木)11月8日(土)
【実施場所】
直方市子育て支援センター
直方市立図書館
【参加対象】
どなたでも参加可
【参加人数】
45名(❶25 名、❷20 名)
【運営スタッフの人数】
5人
【所管の教育事務所】
北九州教育事務所　社会教育室
☎:0949-25-1205



こどもたちの読書習慣形成　まずは絵本から！　遠賀町立図書館の取り組み

イベントの目的

◆絵本に触れることは、語彙力・表現力・読解力・想像力等の多様な能力を養う第１歩であることは知られている。
◆その絵本を作る人とこどもたちが直接交流し、絵本をより身近に感じることで絵本に対する興味・関心を高め、自然と絵本を読む習慣が身につき、ひいては読書習慣の形成にも繋がる。


【読み聞かせ】


【ライブペイント】

活動内容

《事前の活動》
町内読み聞かせボランティアと実行委員会を立ち上げ、絵本作家を招聘して読み聞かせとライブペイントを　同時に行う企画を立案。画家・詩人である詩太（U-ta）氏にイベントの趣旨を説明し、賛同を得る。

《イベント当日》
図書館ウッドデッキにて、❶ 図書館スタッフ・ボランティアによる読み聞かせ ❷ 詩太氏によるライブペイント ❸ 詩太氏とこどもたちによるウッドデッキの窓ガラスにお絵かき、を一気通貫で実施した。

《事後の活動》
イベント終了後、完成した作品・当日使用した画材と詩太氏作の絵本等を「詩太のへや」に展示し、より多くのこどもたちの目に触れる機会を創り出している。


【お絵かきタイム】


【詩太のへや】

【実施期日】
令和７年10月12日(日)
【実施場所】
遠賀町立図書館ウッドデッキ
【参加対象】
幼児から小学校6年まで
【参加人数】
こども24名＋保護者30名
【運営スタッフの人数】
10人
【所管の教育事務所】
北九州教育事務所　社会教育室
☎:0949-25-1205

参加者の声

読み聞かせ・ライブペイント・お絵かきタイムを組み合わせた企画は詩太氏自身も初体験であり、また参加者にも新鮮な企画であった。ほとんどの参加者が詩太氏との記念写真撮影を希望され大変喜ばれた。

◎成果△課題

◎読書習慣を身につけさせるための第1歩である絵本に興味を持たせることは達成できた。
△反省点として、イベント開催前の挨拶で本事業の目的および実施理由（読書習慣形成）についてロ頭で説明したが、①段階的なステップ ② どの段階でも共通して意識すべきポイントを資料にして配布し、保護者が自宅で実践できるようにしておけばより効果的であったと思われる。



笑顔の読み芝居　ひらく！絵本と音の世界

イベントの目的

◆こどもとその保護者だけではなく、より広い年齢層に対して絵本の魅力を発信し、本に対する興味･関心を高めるため。
◆大型商業施設でイベントを行う事により、本に興味がない、図書館を知らない人たちが本と接するきっかけをつくる。

☞活動内容

《事前の活動》
・令和６年度に実行委員会を組織し、ゆめタウン大牟田にて「ひろがる！お話と音楽の世界」を開催。今年度はその内容をよりブラッシュアップし、前年度よりも広い会場で開催をすることとした。
・より多くのこどもに参加してもらうために市内小学校全児童にチラシを配布した。

《イベント当日》
・読み芝居ユニット「よみしばいわおん」による絵本の読み芝居（ピアノの伴奏付き）と、ピアノ演奏を交互に上演した。
・読み芝居で読んだ絵本のリスト、図書館の利用案内、図書館のイベント等のチラシ等を配布した。

《事後の活動》
・大牟田市立図書館内に読み芝居で上演した絵本の特設コーナーを作成した。



【舞台の様子】



【会場の様子】

【実施期日】
令和７年８月24日(日)
【実施場所】
イオンモール大牟田ありあけコート
【参加対象】
どなたでも参加可
【参加人数】
250名(最大滞留数)
【運営スタッフの人数】
３人
【所管の教育事務所】
南筑後教育事務所　社会教育室
☎:0942-53-7524

参加者の声

▶パワフルな読み芝居を見て、絵本の新たな魅力と可能性に触れることができた。

▶午後のヒーローショーのために来て、時間があったので立ち寄ったが、とても楽しくて引き込まれた。

▶元気をもらえたし、ピアノ演奏に癒された。

▶こどもが絵本好きなので見に来た。楽しかった。

◎成果△課題

◎たまたまその場に居合わせた人達が参加することも多く、色々な人が集まる商業施設でイベントを行う意義を感じた。上演の途中で席を立つ人はおらず、最後まで楽しんでいる様子だった。

△「読んだ本のタイトルが知りたい」という反応はあったが、どのように図書館の利用や読書の向上へ繋がったか、数字として成果が見えにくい。



本と小径とマリンバの午後

イベントの目的

◆普段、図書館の利用がない未利用者に対し、市民の集う公共の場においてイベントを実施する事で図書館の存在をアピールし、図書館への来館を促し、図書にふれていただくような「読書好きを育む環境づくり」を目指す。

活動内容

《事前の活動》

・実行委員会を立ち上げ、JR 行橋駅前広場においてに賑わいの場を創出するために❶移動図書館を配置、❷キッチンカーを併設、❸地元音楽グループによる演奏会を実施、❹行橋駅～リブリオ行橋までのフットパスを実施、以上４つのイベントを柱に開催する事を決定した。

《イベント当日❶「ゆっくん in 行橋駅」》

・行橋市移動図書館「ゆっくん」が行橋駅に出張し、貸出を実施した。　《貸出冊数：43 冊》

《イベント当日❷「キッチンカーの併設」》

・行橋駅前に、キッチンカー2 台とテントでのテナント２店、合計４店舗が出店した。

《イベント当日❸「おはなし to マリンバ」》

・「地元音楽グループによる演奏会」AMODA さんによるマリンバ演奏を２回実施した。
・当日雨予報のため、演奏会場所をリブリオ館内へ変更した。　《参加者：73 名》

《イベント当日❹「ミニミニフットパス」》

・JR 行橋駅⇔リブリオ行橋間を計９回実施した。普段訪れない小径・場所を案内した。　《参加者：32 名》
※イベント❹と併せて、本を巡るスタンプラリーイベント「読書が好きなきもちをそだてよう」を実施した。

参加者の声

▶マリンバの演奏内容が素晴らしかった。
▶マリンバの演奏内容が、図書館とコラボ（絵本の読み聞かせ）になっていて、大変良かった。
▶フットパスでの街散歩は大変楽しかった。
▶大学生によるフットパスのアテンドに元気をいただいた。
▶キッチンカーの店舗のバランスが良かった。
▶ゆっくんバッグは使い勝手がよく重宝してます。

◎成果△課題

◎参加人数 延べ 175 名（※スタンプラリーイベント:44 名）
◎AMODA さんによるマリンバ演奏会は、絵本読み聞かせを組み合わせた図書イベント向けで大変好評であった。
△悪天候のため、演奏会場の変更を SNS でお知らせしたが、SNS 未使用の方には情報が伝わっていなかった。
◎フットパスでは、北九州市立大学の学生の協力があり、全9回実施でそれぞれ参加者に楽しんでもらえた。
△図書館の外で図書イベントをするという挑戦を行うことができ、イベントのノウハウが得られた。しかし、天候により、来場者も左右されるという屋外イベントの難しさも感じた。



【フットパスの様子】



【貸出の様子】

【実施期日】
令和7年11月9日(日)
【実施場所】
JR 行橋駅東口広場とリブリオ行橋
【参加対象】
どなたでも参加可
【参加人数】
各ｲﾍﾞﾝﾄ参加人数は左記を参照
【運営スタッフの人数】
20 人（図書館・北九大生・自治体）
【所管の教育事務所】
京築教育事務所　社会教育室
☎:0979-83-3601



苅田町を読書のまちへ！地域・行政・学校連携のビブリオバトル

イベントの目的

◆身体と心が大きく成長する中学生の時期に、豊かな知識や情報、そして心の栄養となる本(物語等)に触れる機会を提供する。
◆読書習慣を身に付けさせることで、自分自身の成長を促す機会を創る。

活動内容

《事前の活動　実行委員会での協議》
・「中学生に本と出合うきっかけを作りたい」という思いから、実行委員会を立ち上げ、町内の全中学生を対象に授業の１コマをいただき、ビブリオバトルを開催した。バトル本は、実行委員会の思いを汲み取りながら、生徒の発達段階に合うように、多様なジャンルから選書の議論を行った。

《イベント当日①②　各学校体育館でビブリオバトルを開催･･･苅田町立新津中学校･苅田町立苅田中学校》
・実行委員会の読書ボランティアから４名ずつバトラーを選出し、各学年に（学校毎に３回）ビブリオバトルを実演した。中学生には、気に入った本の投票をしてもらい、チャンプ本を決定した。その後、２月のビブリオバトル大会のチラシを配布し、中学生部門のバトラー募集も併せて行った。

《事後の活動　読書ボランティア・行政・学校を交えたフィードバック会》
・ビブリオバトル終了後に実行委員会と中学校の先生方とでフィードバック会を実施した。生徒の感想を共有したり、紹介した本を学校で購入してもらったりした。また、町立図書館と学校図書館の相互貸借も行うことができた。ビブリオバトル大会を中心に、今後の連携についても協議を深めることができた。

《イベント当日③　ビブリオバトル大会を開催･･･苅田町立図書館》
・２月に中学生部門と一般部門の２部門でビブリオバトル大会を実施した。

参加者の声

▶本に興味がなかったが、バトラーの紹介を聞くとその本を好きな気持ちが伝わってきて紹介された本を読んでみたいと思った。
▶紹介されていた本が様々なジャンルだったので楽しかった。紹介されると興味が沸くのでまたビブリオバトルを体験してみたい。
▶今回のビブリオバトルで自分の読みたいジャンルに気づかされた。図書館で探してみたい。
▶自分も好きな本があるので、機会があれば紹介してみたい。

◎成果△課題

◎小学校と中学校間での継続した読書活動を展開したいという願いの実現に向けて、地域・学校・行政とが一堂に会して協議する土壌ができ、こどもの読書活動充実への一歩を踏み出すことができた。

△ビブリオバトルで紹介した本を事前に学校で読めるように準備をして、こどもたちが読みたいと思ったときにすぐ読める環境を作ることが必要である。



【新津中学校の様子】



【苅田中学校の様子】

【実施期日】
①令和7年10月27日(月)～29日(水)
②令和7年11月12日(水)～14日(金)
③令和8年2月21日(土)
【実施場所】
①新津中学校　②苅田中学校
③苅田町立図書館
【参加対象】
①②全中学生　③中学生・一般他
【参加人数】約1,000名(延べ人数)
【運営スタッフの人数】13人(平均)
【所管の教育事務所】
京築教育事務所　社会教育室
☎:0979-83-3601

体験活動に関する事業

体験活動は、社会を生き抜く力として必要となる基礎的な能力を養うという効果があり、社会で求められるコミュニケーション能力、自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神等が育まれるといわれています。

しかし、少子化、核家族化、デジタル化等が進み、次代の社会を担うこどもたちには、リアルな体験が不足しています。そのような中、文部科学省においても、令和４年６月にこどもたちの体験活動を推進するための「子供の体験活動推進宣言」を発表し、改めて体験活動を強く推進することとしています。

今後も、実体験を重視した教育を推進し、こどもたちの体験機会の充実を図ります。





春日市放課後子供教室（アンビシャス広場）

事業目的

◆地域住民参画の下、こどもたちを対象に、安全かつ安心な居場所を確保し、様々な体験活動や交流活動を行う。
◆青少年の健全育成を推進するとともに、地域ぐるみでこどもを育てる環境づくりに資する。

☞活動内容

市内全１２小学校区３１会場で５８活動を実施。

《事例１》春日野小「ゆめっちゃ広場」
　体を動かしたり、おもちゃで遊んだり、おしゃべりをしたり、思い思いに好きなことをして過ごす広場。いったん帰宅してから学校の多目的ホールに集合し、和やかな雰囲気の中で異年齢間の交流も行われている。
《事例２》天神山小学校区３地区合同アンビシャス広場
　アンビシャス広場を実施している３つの地区の自治会が合同で実施。放課後に直接学校の体育館へ集合して、大人数でバルーンドーム、昔遊び、スライムづくりなどの様々な体験活動を実施。
《地域との連携協働に向けた取組》
○「地域でこどもを育てる交流会」を実施し、学校、家庭、地域が連携してこどもを育てる取組を行っている団体等の成果や情報を共有。団体や立場の垣根を越えて三者が交流することで、互いのつながりを深め、地域でこどもの育ちを支えるネットワークの拡充を図るとともに、家庭・地域の教育力の向上を図っている。
○放課後子供教室のスタッフを対象にした研修会「かすがアンビネット」を年２回開催し、資質向上のための講習会やグループワークを通した課題の共有を図り、各活動の継続・発展を図っている。
○「学校・家庭・地域をつなぐ～こどもを育む活動情報紙～らいん」を年２回発行し、こどもに関わる活動情報やイベント、研修会の様子、講座の案内を周知し、日頃から興味・関心をもってもらう。

参加者・運営スタッフ等の声

▶参加すれば約束をしていなくてもいろんな友達と遊ぶことができて嬉しい。（参加児童）
▶こどもたちには、実際に見て、感じる、生きた体験をたくさんしてほしいと思っている。（運営スタッフ）
▶年齢や地域の垣根なく交流ができて、こどもが楽しそうに遊べている。（参加児童の保護者）

◎成果△課題

◎こどもたちの身近な場所で、体験・交流活動の機会を提供できている。
◎地域全体でこどもを育てるという意識が高まっている。
△校区によっては活動を担う人材が不足している。



【天神山小学校区三地区合同アンビシャス広場（バルーンドーム）】



【地域でこどもを育てる交流会】

【実施期日】
　年間を通して実施
　（令和6年度延べ開設日数 872 回）
【実施場所】
　小学校、自治公民館等
【運営主体】
　全 12 小学校区の運営委員会
【運営スタッフ】
　○コーディネーター
　○協働活動サポーター
【担当課】
　春日市教育委員会地域教育課
　☎:092-584-1111



学童スポーツ教室

事業目的

◆スポーツ推進委員がニュースポーツの楽しさや魅力を体験を通して伝え、地域のこどもたちへの普及と理解促進を図るとともに、スポーツを通じて協調性や主体性を育むことを目的とする。



【くつしたまいれの様子】



【モルックの様子】

活動内容

《事前会議》
事前にスポーツ推進委員会議でいくつかの種目を検討・決定し、当日は参加者の人数や低学年・高学年の割合などを考慮して、その場で実施種目を最終決定した。

《ドッヂビー》…ドッジボールとフリスビーを組み合わせたニュースポーツ。
こどもたち同士でチームを組んで対戦したり、スポーツ推進委員と対決したりするなど、対戦形式を工夫しながら行い、さまざまな楽しみ方で盛り上がった。

《モルック》…木の棒を投げて、番号のついた木製ピンを倒し、５０点ちょうどを目指すニュースポーツ。
モルックはコントロールが難しく、最初はなかなかピンに当たらなかったが、当たった時には大きな歓声が上がり、達成感を味わいながら楽しむ姿が見られた。

《くつしたまいれ》…バラバラに置かれたくつしたをペアにして見つけ、丸めて玉を作ってかごに投げ入れる。
１回戦、２回戦と進むにつれて、こどもたちはくつしたのペアを探すのも早くなり、上手にかごに投げ入れられるようになった。回を重ねるごとに集中力が高まり、夢中になって楽しむ姿が印象的だった。

参加者の声

▶友達と協力できてよかった。
▶ドッヂビーが楽しかった。
▶知らないスポーツを教えてくれてありがとうございました。
▶モルックがむずかしかったけど楽しかった。またやりたい。
▶楽しかった。また来てほしい。
▶くつしたまいれでたくさん入れられたのがうれしかった。

◎成果△課題

◎こどもたちはニュースポーツを通して、仲間と協力しながら体を動かす楽しさを感じ、学年を超えた交流や達成感を得ることができた。
◎ドッヂビーが楽しかったという声が多く、こどもたちの「体を動かしたい」という気持ちが高まっている様子が見られた。
△高学年と低学年では体力や理解度に差があるため、今後は学年に応じたチーム分けや進行方法の工夫が必要である。

【実施期日】
　令和７年11月8日(土)
【実施場所】
　遠賀町立広渡小学校体育館
【参加対象】
　ひまわり学童クラブ児童25名
【参加費】
　無料
【運営スタッフの人数】
　遠賀町スポーツ推進委員６名
【担当課】
　遠賀町教育委員会生涯学習課
　☎:093-293-1326



大刀洗町「家庭の日」推進共同事業

事業目的

◆さまざまな講座を親子で体験することにより、家庭の意義を見直したり、家族のふれあいや結びつきを深めたりすることを目的として、大刀洗町青少年育成町民会議と中央公民館講座「親子で楽しむ！まなビィ講座」が共同で事業を行う。

☞活動内容

《「家庭の日」推進共同事業》

①　「防災講座　災害クッキング！～作る！食べる！もしもの時のごはん～」【7 月】
　　〇災害時にライフラインが止まったことを想定して、卓上ガスコンロの有用性と水のストックの必要性について学んだあと、耐熱ビニール袋を使った湯せん調理を体験した。

②　「たまには親子でボードゲームでもしよっか！３」【8 月】
　　〇レトロゲームをテーマに「すごろく」を体験した。

③　「親子で体験！飯盒炊爨」【9 月】
　　〇飯盒炊爨はほぼ全員が未体験であった。米研ぎ、火起こしのあと飯盒炊爨を体験した。

④　「親子で歴史体験　かぶとをかぶろう！鎧にさわろう！」【10 月】
　　〇大刀洗町で所有するレプリカ甲冑を会場に持ち込み、各パーツの説明や兜を被ったり鎧をさわったりした。

⑤　「冬の夜の大冒険？夜のドリームセンター探検」【12 月】
　　〇懐中電灯を照らしながらドリームセンター内に設置された目印を探してルートを進んで行く探検をした。



【③「親子で体験！飯盒炊爨」の様子】

参加者の声

①湯せんでごはんや蒸しパンができてびっくりした。
②面白かったので、家でもまたやってみたい。
③親子で飯盒炊爨をして、楽しかった。
④見たり触ったりできて面白かった。
⑤暗くて怖かったけど楽しかった。

◎成果

◎「家庭の日」推進共同事業をとおして、興味・関心をもって知識を広げる場となった。
思春期に突入する前の親子での会話や交流の足がかりにして、更なる関係性を深めていってもらえるよう、今後も事業を実施していく。

【参加対象】
　町内の小学生
【参加費】
　無料～110 円(①のみ)
【運営スタッフ人数】
　2～4 名
【担当課】
大刀洗町教育委員会生涯学習課
☎:0942-77-2670



八女市スーパースクール事業
「大阪・関西万博で YAME の魅力を広め隊！」

事業目的

◆2025 年大阪・関西万博「地方創生 SDGs フェス（主催：内閣府地方創生推進事務局）」への八女市の出店に併せて、市内の中学生が八女市及び八女茶の魅力を国内外へ広く PR する同活動へのサポートに参加することで、青少年の郷土愛の育成を図る。

活動内容

《事前研修》
　自己紹介および当日の流れについて説明を行った。また、ステージ登壇の際に行う○×クイズの問題を企画政策課職員と一緒に考えた。
《八女伝統本玉露プロモーション事業 in 大阪・関西万博「究極のお茶で地域の魅力を高めるまち」のサポート》
　大阪・関西万博で開催された「地方創生 SDGｓフェス」にて、ステージ PR で八女市の魅力を発信したほか、ブースでの八女茶販売のサポートを行った。
《2025 年大阪・関西万博の会場見学》
　パビリオン「未来の都市」内を見学し、様々な最新技術を学び、未来を体感することができた。
《大阪市内のフィールドワーク》
　２日目は、男女ごとに分かれて、大阪市内のフィールドワークを実施。行き先などは、参加者同士で話し合って決定した。

参加者の声

▶自分たちが住んでいる八女市のことを、万博という大きな舞台で、PR できたのはとてもやりがいがあった。
▶ステージ登壇はとても緊張したが、お客さんの反応も温かく、多くの人に八女市を知ってもらえたことが嬉しかった。
▶八女茶の魅力を伝えるために、改めて八女茶について勉強した。

◎成果△課題

◎ステージでの○×クイズの問題やフリートークの内容を参加者が中心となって考案することで、ふるさとである八女市の魅力を深掘りし、郷土愛の育成を図ることができた。
◎ステージ登壇や、八女茶の販売をとおして、多くの人とコミュニケーションを取ることができた。
△募集人数を大幅に上回る応募があり、参加希望者全員を連れていくことはできなかった。



【事前研修の様子】



【ステージ登壇の様子】

【実施期日】
　令和７年5月 31 日(土)・6月1日(日)
【実施場所】
　2025 年大阪・関西万博(大阪市夢洲)ほか
【参加対象】
　市内中学生　６名
【参加費】
　無料
【運営スタッフの人数】
　２人
【担当課】
　八女市教育委員会社会教育課
　☎:0943-23-1318



嘉麻市ときめき学習

事業目的

◆地域の人々とふれあえる(異世代交流)場や体験をとおして、こども達が学びながら、自主性、協調性、創造性など生きる力を培う機会を提供することで、地域を見つめ直し、故郷を愛し、誇れる心を育てる。



【学習タイムの様子】



【体験･学習活動の様子】

活動内容

市内地区公民館、分館など（市内８館）で、長期休暇の期間（夏休み、冬休み）で実施した。

《学習タイム》
長期休暇中の宿題などを持ち込み、地域公民館（分館）職員の方々（地域ボランティア含む）や高校生ボランティアをはじめ、市内小・義務教育学校前期の教職員からも指導を受け、１時間程度実施した。

《体験・学習活動》
各地域の特色を活かした内容による体験活動に挑戦した。
川遊び、そうめん流し、ピザ作り体験、ボルダリング体験、アート体験、料理、将棋などの体験活動や防災教室、防災かるた、防犯教室、人権のはなし、科学あそびなどの学習体験をとおし、こども達が地域の人々とふれあえる（異世代交流）場として実施した。

《事後の活動》
体験・学習活動の中に、地域の歴史・史跡等文化的学習を取り入れると、地域に興味を持つきっかけになるのではと、運営スタッフ会議内で振り返った。

参加者の声

《学習タイム》
▶宿題も集中して進めることが出来たので、すごく良かった。
《体験・学習活動》
▶日頃学校や家庭では出来ない体験も出来て、すごく楽しかった。
▶普段話していない友達も出来て、すごく楽しかった。

◎成果△課題

◎集団生活におけるルールの大切さや、自分たちで工夫して生活する姿が伺えたし、何より地域の方々とのふれあいにより、地域を知ること、学ぶことができた。
◎学校とは違った場の学びもあり、参加したこどもの保護者からも、夏休みの定着した講座の一つと認識してもらっている声もあり、地域のつながりを感じてきている。

△記録的な猛暑が続く夏の活動については、新たな対策など、実施内容の検討が必要だという意見も出ている。

【実施期日】
令和７年7月22日(火)～8月21日(木)
（稲築2回、嘉穂16回、山田3回）
【実施場所】
嘉麻市稲築地区公民館他全8館
【参加対象】
小学生児童･義務教育学校前期児童
【参加費】
100円
【運営スタッフ】
地域公民館(分館)職員やボランティア
高校生ボランティア
【担当課】
嘉麻市教育委員会生涯学習課
☎:0948-62-5722



豊前市子ども会連合会インリーダー研修会



【キャンプファイヤーの様子】



【夕食準備の様子】

事業目的

◆小学５･６年生を対象に、地域子ども会内のリーダー(インリーダー)にふさわしい知識とスキルを身に着けることを目的とする。

☞活動内容

《研修①「SDGs」について》
SDGsの概要説明と（わかりやすい木質バイオマス）と銘打って木質バイオマスとカーボンニュートラルについての座学研修を実施した。

《研修②「人権」について》
福岡県視聴覚ライブラリー貸出DVD【学生のための人権「思い込みに気づく」】を活用し、人権座学研修を実施した。

《夕食準備》調理体験
メイン料理の鶏モモ肉のローズマリー焼きの仕込み調理体験を行った。調理後は、参加者全員で実食し、交流を深めることができた。

《研修③「キャンプファイヤー」》
薪の組み方の基本と着火法を学び、1から焚火を焚く体験活動を実施した。焚火体験活動の後には、力強く燃え上がる炎を囲んでのレクリエーション体験を実施した。参加者同士の交流がより深まった。

《研修④「防災」について》
「災害から命を守る」をテーマに水害と地震についての学びを通して、家族などとの取り決め、地域の人とのお付き合い等の普段からできる防災の取組について考えることや、住んでいる地域について知ることができた。

参加者の声

▶【研修①「SDGs」より】
学校で習っていたけど、木質バイオマスのことがよく分かった。

▶【研修②「人権」より】
DVDを見て、人を見ためで判断しないようにしたい。

▶【研修③「キャンプファイヤー」より】
焚火用の薪の組み方や火の付け方が分かった。

▶【研修④「防災」より】
ハザードマップが全部の家にあると聞いたので、家や学校のまわりの色を見てみたい。

◎成果△課題

◎　集団生活、班での行動により、情緒的、社会的な資質の発達の一助となった。

◎　座学での学びと調理、焚火などの直接体験により、多様な力の向上が見られた。

△　６月下旬の開催で気温・湿度が厳しく、食品取り扱いや熱中症等、新たな対策や実施時期、開催場所の変更を検討している。

【実施期日】
令和7年6月28日(土)･29日(日)
(一泊二日)
【実施場所】
豊前市合河公民館
【参加対象】
小学５･６年生児童 16 名
(ジュニア･リーダー6名)
【参加費】
1,000円
【運営スタッフの人数】 10 人
【担当課】
豊前市教育委員会生涯学習課
☎:0979-82-8087

教育事務所主催研修会


北九州
京築
福岡
筑豊
北筑後
南筑後
遠賀郡
芦屋町
水巻町
岡垣町
遠賀町
宗像市
中間市
福津市
古賀市
鞍手郡
北九州市
新宮町
糟屋郡
宮若市
直方市
久山町
小竹町
糸島市
粕屋町
篠栗町
福岡市
志免町
須恵町
福智町
飯塚市
香春町
苅田町
糸田町
春日市
宇美町
行橋市
田川市
大野城市
桂川町
田川郡
京都郡
太宰府市
嘉穂郡
大任町
みやこ町
那珂川市
筑紫野市
嘉麻市
川崎町
赤村
築上郡
筑前町
朝倉郡
築上町
小郡市
添田町
豊前市
吉富町
大刀洗町
三井郡
朝倉市
東峰村
上毛町
久留米市
大川市
三潴郡
大木町
広川町
筑後市
八女郡
うきは市
柳川市
八女市
みやま市
大牟田市



令和7年度地域活動指導員・こどもの体験活動研修会
～令和7年度未来こどもチャレンジ子ども体験プランナー養成講座（特別講座）～

事業目的

◆未来を担うこどもたちの「やる気や生きがい」「思いやりや人間関係構築能力」といった生きる力を育てるこどもの体験活動における県の事業や実践事例について知り、こどもと体験の場の理解を図るとともに、豊かな体験の場を生み出すプランニング力や、その場を充実させるコーディネート力等、体験活動を推進するための資質・能力の向上に資する。

☞活動内容と参加者の声

《実践発表》
『体験活動推進コーディネーターを活用するには？～宇美町の事例から～』
公益社団法人福岡県青少年育成県民会議　育成課長　庄嶋　勝司　氏
宇美町教育委員会　こどもみらい課子育て支援係　主査　早野　明日菜　氏
一般社団法人　ＰＬＡＹ　ＦＵＫＵＯＫＡ　代表理事　古賀　彩子　氏

《参加者の声》
・体験活動推進コーディネーターを活用している事例を聞きたいと思っていたので、大変勉強になった。
・地域の人材等も活用しながら、地域住民も巻き込んで一緒になってこども主体のイベントの企画・運営を通して地域がつながり、育ち合う大切さを学ぶことができた。

《演習》
「こども主体の体験活動を企画するためには？」
北九州市立大学文学部人間関係学科　教授　山下　智也　氏（体験活動推進ディレクター）
一般社団法人　ＰＬＡＹ　ＦＵＫＵＯＫＡ　代表理事　古賀　彩子　氏（体験活動推進コーディネーター）

《参加者の声》
・大人のやらせたいことではなく、こどもたちがやりたいこと、やってみたいことを企画するために、引き算することが大切なのだととても勉強になった。
・自らの活動を客観的に見直すことができた。参考になる助言をいただいた。グループの方に感想をいただいて、自信をもつことができた。

◎成果△課題

◎福岡県青少年育成県民会議と共催で開催し、県事業を活用した事例発表、体験過活動推進ディレクター及びコーディネーターによる演習を中心とした研修構成としたことで、学びがつながり、参加者の「こども主体」の体験活動の理解が深まった。
△福岡県青少年育成県民会議との共催についての成果と課題を他事務所と共有し、来年度以降の連携の在り方について検討する。

【アンケート結果】
1. 実践発表は参考になりましたか？
肯定的回答の割合…100%
2. 演習は参考になりましたか？
肯定的回答の割合…98%

【実施期日】
令和７年7月4日
【実施場所】
福岡県中小企業振興センター
【参加者数】
80名
【主な参加者】
・地域活動指導員
・こども会役員・・・等
【担当課】
福岡教育事務所　社会教育室
☎:092-643-0118

令和7年度　地域と学校の連携・協働推進研修会

事業目的

◆地域学校協働活動とコミュニティ・スクールとの一体的な推進についての研修を行い、社会に開かれた教育課程の実現に資する。


【パネルディスカッションの様子】


【グループディスカッションの様子】

活動内容

《説　　明》
　参加者の皆さんに本研修会の意図や内容をご理解いただき、実りある研修会になるよう、はじめに地域学校協働活動及びコミュニティ・スクールを行う意義や実施状況について説明を行った。

《パネルディスカッション》
　宮若市の取組について、宮若市教育委員会　主幹指導主事　吉田　氏、宮田西小学校　教頭　門司　氏、特定非営利活動法人「育ちと学びの応援団」　代表　赤星　氏にご発表いただいた。また、アドバイザーとして福岡教育大学　教授　伊藤　氏をお招きしお話いただいた。参加者からは、「しっかりした組織がつくられ、学校と学校外の連携が図られており大変参考になった」、「活動内容や効果について具体的に知れて良かった」等の声があった。

《グループディスカッション》
　パネルディスカッションを受け、それぞれの立場で「今後できそうなこと」や、「やってみたいこと」について、えんたくんを活用しワールドカフェ形式で、考えの共有や情報交換を行った。参加者からは、「多様な意見を聞いたことで、取り入れられそうな取組が整理できた」、「様々な立場、市町の方と交流でき有意義な時間だった」等の声があった。終始、和やかな雰囲気で交流する様子が見られた。

参加者の声

▶毎年参加しており、講師の皆さんの話を急いでメモしている。次回、本校運営協議会で報告し、みんなに共有したい。

▶正解はなく、とにかく動き始めることが大切だと思った。できることからしていきたい。

▶今日学んだことをもとに、本校でできそうなこと、今やっていること等を整理して取り組んでいきたい。

◎成果△課題

◎多様な立場（学校、行政、地域など）の参加者による交流が高評価であり、関係構築・情報共有の場として機能し、地域連携の土台を固めることに繋がってきている。

△管内市町によって取組状況が様々なため、「導入の手順」や「失敗談」など、活動を具体的にイメージし、最初の一歩を踏み出しやすいと感じるような、参加者の習熟度に応じた情報も提供できるように努めていきたい。

【実施期日】
　令和７年9月4日(木)
【実施場所】
　鞍手町中央公民館
【参加者数】
　75名
【主な参加者】
　・地域学校協働活動関係者
　・学校運営協議会関係者
　・小、中学校教職員　　等
【担当課】
　北九州教育事務所　社会教育室
　☎:0949-25-1205

令和７年度　北筑後地区地域活動指導員等研修会

事業目的

◆こどもに直接かかわる指導者として人権に関する知的理解を深め、人権感覚を高めるとともに、こどもの体験活動に関する知識や技能を身に付けたり、具体的な支援の在り方について学んだりすることを通して、地域活動指導員として実践的指導力の向上を図る。

活動内容

《研修１》
講話「地域活動指導員等の役割について」　北筑後教育事務所 社会教育室　社会教育主事
（参加者の感想より）
昔も今も友だちとの関わり、体験を欲していることがわかり安心した。時間・空間・仲間という環境があれば、メディアづけの環境を変えられるかもしれない。その環境づくりは大人の役割だと思う。

《研修２》
講話「こどもを取り巻く現状と課題から見えること」北筑後教育事務所 人権・同和教育室　社会教育主事
（参加者の感想より）
こどもたちの居場所づくり、こどもたちが楽しめる時間をつくりたい。生きる力を育むためにも。

《研修３》
講話・演習「みんなで学ぼう!ものづくり&サイエンスショー!」青少年科学館 スタッフ
（参加者の感想より）
身近なものでできそうなものばかりでとてもよかった。ぜひ活かしたい。

《研修４》
グループ交流「研修の振り返りと今後の活動に向けての意見交流」北筑後教育事務所社会教育室 社会教育主事
（参加者の感想より）
講話も演習も大変参考になった。日々、体験活動を行うにあたり「ネタ」はたくさん必要なので、ぜひ今後も教えていただきたい。

参加者の声

○とても楽しい内容だった。すぐにでもできるマジックを知ることができ、有り難い。
○科学の不思議を学べる楽しい講座だった。工作もマジックも参考になるものばかりだった。
○「こども主体」でいつも考えていくことを大切にしていきたいと思った。

◎成果△課題

◎研修会の中で、県青少年科学館職員による講話を１コマ設けることで、こどもたちが興味関心をもって安心安全に活動できる方法について学ぶことができた。
△全参加者が主体的に研修に参加できるよう、地域活動指導員として日頃どのような活動をしてあるのか、どのような思いや悩みをいただいてあるのか等の実態を事前アンケートや視察等でつかむ必要がある。


【研修３（スタッフ説明）の様子】


【研修３（科学工作）の様子】

【実施期日】
令和７年7月2日（水）
【実施場所】
福岡県青少年科学館
【参加者数】
30名
【主な参加者】
・地域活動指導員
・社会教育指導員　他
【担当課】
北筑後教育事務所　社会教育室
☎:0942-32-3124

福岡県プレイリーダー研修2級

事業目的

◆こども会や放課後児童クラブ、地域のこどもサークル等の指導に関わる人及び関心を持つ人を対象に、レクリエーション等の指導・技術についての講義を行うことで、こどもの体験活動を支援するための専門的な知識・技術と、こどもとの基本的な関わり方の習得を図る。

☞活動内容

《講義「プレイリーダーの意義と役割」》
　こどもたちの現状と体験活動の必要性を知り、そのためにプレイリーダー（遊びのリーダー）がすべきことについて講義を通して考えた。

《講義・演習「こどもの体験活動と安全管理」》
　WakuWakuOFFICE あそ Be 隊　代表　薄井　良文　氏　より、安全についての知識やこどもがけがをしてしまったときの対処法について、実践演習を交えて学んだ。けがの実際の現場を想定した演習であり、自分たちができることを再確認することができたとの声があった。

《講義・演習「こどもの体験活動の実際」》
　こどもたちの集中を高めるゲームを体験的に学ぶとともに、指導者が状況に応じて柔軟に対応し、自身も楽しみながら関わることの重要性を理解した。また、リスクを排除するのではなく、リスクを感じ取り、適応する力を育てる体験の必要性について学んだ。



【講義「プレイリーダーの意義と役割」の様子】


【演習の様子】

参加者の声

▶プレイリーダーという言葉を初めて知り、とても新鮮で、内容や役割がしっかり心に残った。
▶AED を用いた研修では、自ら考えることの大切さを実感することができた。
▶とても暖かい雰囲気の研修会で、ゲームを通してみんなが笑顔になれるように工夫してあり、参加できてよかった。

◎成果△課題

◎受講者の所属団体（保育園、学童保育の先生、こども会等）を把握した上で、講師と研修の具体的な演習内容や構成について打合せを行ったことで、受講者のニーズにあった研修となった。
△参加者のさらなる増加のために周知の方法を工夫する必要がある。

【実施期日】
令和 7 年6月22日(日)
【実施場所】
みやま市総合市民センターMIYAMAX
【参加者数】
34 名
【主な参加者】
子ども会育成会役員及び会員、
教職員、体験活動に関心のある方 等
【担当課】
南筑後教育事務所　社会教育室
☎:0942-53-7524

令和7年度　地域学校協働活動推進員交流会

事業目的

◆筑豊教育事務所管内の地域学校協働活動推進員を対象に、実践発表や交流を通して、日ごろの取組状況や課題、その解決方法にむけた方策を検討することにより、推進員のネットワーク作りや実践意欲の向上を図り、担当する地域の地域学校協働活動の実践に活かすことができるようにする。



【実践発表の様子】


【交流の様子】

☞活動内容

《実践発表》「真崎小学校の地域学校協働活動推進員として」

川崎町立真崎小学校 地域学校協働活動推進員 中村 千恵 氏

中村氏による実践発表では、学校運営協議会での熟議の内容や人材発掘・持続的な体制づくりの取組及び地域づくり等、真崎小学校の地域学校協働活動推進員としての活動内容についてご発表いただいた。その後、中村氏と参加者の間で「学校のニーズを把握する方法」「講師の募集の仕方」等についての質疑応答が行われた。

《交流》「学ぼう つながろう 地域学校協働活動推進員」

実践発表を受けて、地域学校協働活動を活性化するために「人材発掘の方法」「放課後こども教室での取組内容」「学校と連携する方法」等について、ワールドカフェ形式で取組状況や課題の共有、意見交流を行った。推進員や行政、活動サポーター等、多様な視点から活発な意見交流がなされた。交流する中で、「退職校長会やPTA にもサポーターの要請をする」「各市町村で推進員の在り方が違う」等、新しいアイデアや気づきが生み出されていた。

参加者の声

○推進員の役割の幅広さに気付かされた
○学校運営協議会と推進員が連携することが大切だと感じた。
○他の市町村も人材発掘や後継者不足等で同じ悩みを抱えていることが分かった。
○持続的な体制づくりのために、アンケート等で、サポーターの得意分野の情報を得て、リスト化していきたい。

◎成果△課題

◎参加者は、実践発表や交流を通して、他地区の取組状況の共有や人材発掘の方法、学校と連携する仕方等、地域学校協働活動を推進するためのアイデアやヒントを学ぶことができた。
△参加者間の筑豊管内におけるネットワーク構築のために、交流時に名刺交換の時間を設ける等、ネットワーク作りのための工夫を行う必要があった。

【実施期日】
令和７年10月3日(金)
【実施場所】
筑豊教育事務所２階研修室
【参加者数】
28名
【主な参加者】
・地域学校協働活動推進員
・市町村生涯学習職員･･･等
【担当課】
筑豊教育事務所　社会教育室
☎:0948-25-2602

京築地区部活動改革研修会

事業目的

◆部活動改革について、京築地区管内各市町で共通理解をはかるとともに、部活動の地域連携･地域移行の在り方について検討する契機とする。



【講義の様子】



【協議の様子】

活動内容

《講　義》

講義では、スポーツ庁地域クラブ活動アドバイザーの澁谷健一氏（公益財団法人新潟県スポーツ協会スポーツ推進課長）に『「部活動改革」でよりよいスポーツ環境づくりを！』のテーマで講演していただいた。

新潟県スポーツ協会の取組を中心とした部活動改革の実践について知ることができた。

《説　明》

説明では、福岡県スポーツ局スポーツ振興課の辻聡一郎氏より「福岡県アスリート人材活用コンソーシアムの指導者派遣について」、公益財団法人福岡県スポーツ協会の森岡光希氏より「地域クラブ運営サポートアプリ」と「JSPO 公認スポーツ指導者資格」について説明していただいた。

《協　議》

協議では、「京築地区における部活動改革について」グループ協議を行った。協議は「①各市町内での意見交換②各所属での情報収集③各市町での交流」の流れで行った。その中で、現在抱えている課題や、課題解決に向けたアイデア、今後の取り組みなどについて協議を行った。

参加者の声

▶新潟県の取組を聞けたのは良い勉強になった。
▶スポーツ協会に部活動地域移行についての指導者としてのアンケートをとってみたい。
▶今後協議会を立ち上げ、意識統一を図っていく。
▶学校現場と行政でしっかり方向性を決めていきたい。

◎成果△課題

◎各市町教育委員会生涯学習課と連携して、各市町教育委員会学校教育課や各市町中学校等に対して広く告知ができたことで、多くの参加があった。
◎参加者の幅が広がったことで、情報交換や交流の機会として、有意義な時間となった。
△身近な地域での事例や具体的な方策についての情報を要望する声があったので、第２回の研修会を実施する。

【実施期日】
令和７年7月1日(火)
【実施場所】
京築教育事務所　2階研修室
【参加者数】
53名
【主な参加者】
・市町教育委員会
・地域スポーツ関係者
・中学校関係者
【担当課】
京築教育事務所　社会教育室
☎:0979-83-3601

県立社会教育施設事業



【県立図書館】



【少年自然の家「玄海の家」】



【県立美術館】



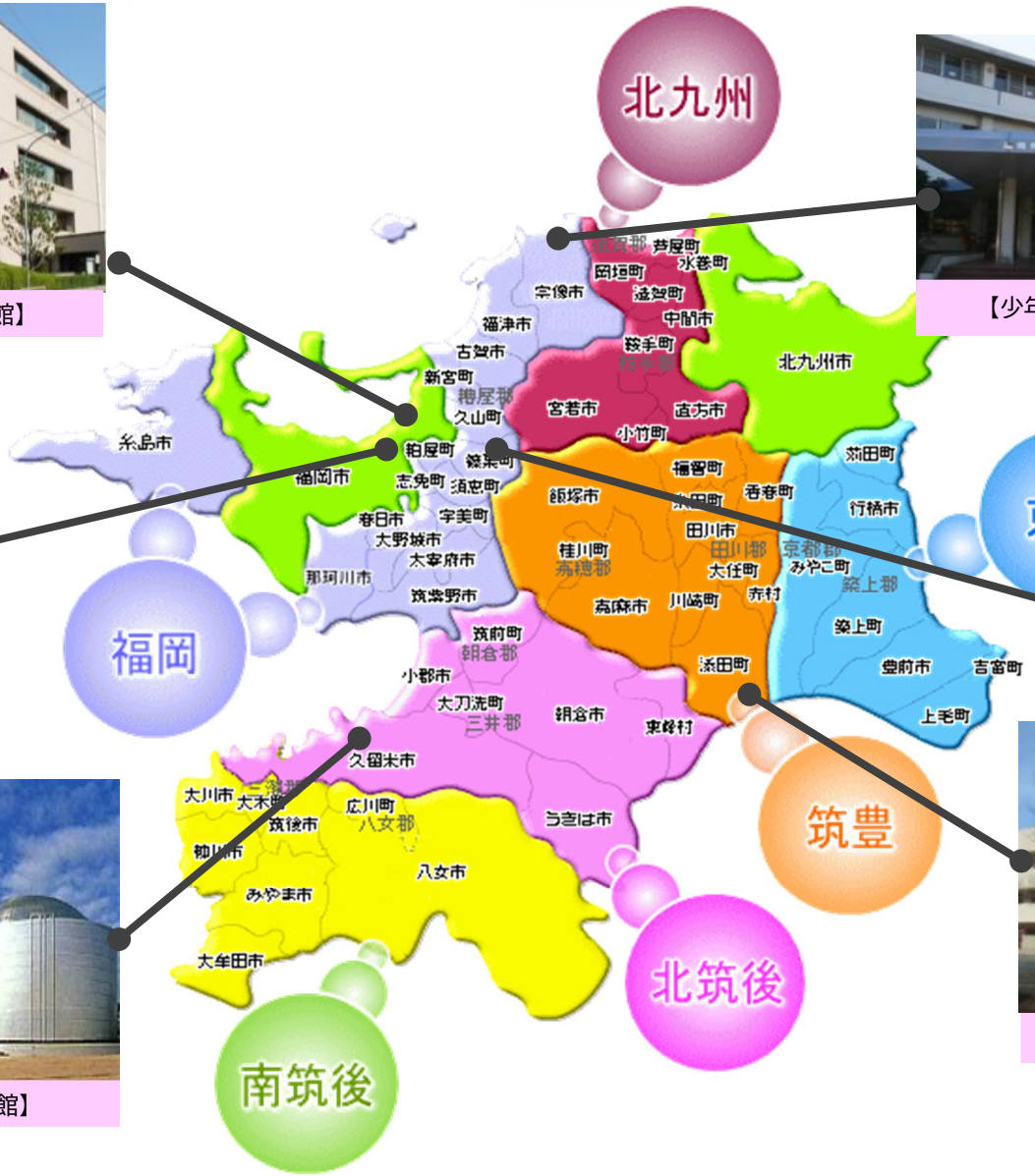
【社会教育総合センター】



【県青少年科学館】



【英彦山青年の家】





社会教育・生涯学習関係職員等研修会

事業目的

【基礎講座】◆社会教育・生涯学習関係職員の新任者及び学び直しを希望する者が、生涯学習・社会教育に関する基礎的知識の習得を図り、これからの生涯学習振興・社会教育行政関係職員に求められる役割と多様な主体と連携・協働しながら、業務を推進していく方法や視点を学ぶ。
【広報講座】◆持続可能な社会の創り手の育成と日本社会に根差したウェルビーイングの向上の実現に向けて、地域における人づくり・つながりづくりを促進する広報についての実践的な知識・技能を学ぶことをとおして、社会教育・生涯学習に携わる職員の資質・能力の向上を図る。



【基礎講座　レクリエーション演習の様子】

活動内容

【基礎講座】

《研修1　ミニ講話》
「公民館」「社会教育委員」「家庭教育支援」「地域と学校の連携・協働」について各担当の社会教育主事が講話を行った。参加者から「社会教育・生涯学習への理解が深まり、今後の業務への見通しをもつことができた。」という感想が寄せられた。

《研修2　講話・演習》
「青少年の体験活動」の基礎知識や今後の方向性についての講話と研修で活用できるレクリエーションの演習を行った。参加者から「レクリエーションを行うことで、グループ活動がより活発になると実感できた。」等の声があった。

《研修3　演習》
参加者同士が意見交換し顔の見える関係をつくること、また、これからの事業推進に関して新たなアイディアや気づきを得ることを目的として、「ワールド・カフェ」による対話を行った。レクリエーションにより打ち解けていたこともあり、大変活発な意見交流がなされた。

【広報講座】

《研修1　講話》
九州大学大学院芸術工学研究院准教授　田北　雅裕　氏にまちづくりにつなげる広報の在り方や手法について御講話いただいた。また、広報を進めていく上で、ターゲットを明確化したり、広報のツールや機会を問い直したりすることの大切さについてもお話があった。参加者からは「地域や行政の課題を広報の目線で解決できるのは目からうろこだった。」等の感想があり、学びの多い講話となった。

《研修2　演習》
複数人で同時に編集できるオンラインホワイトボードツールを使い、グループで広報視点での課題解決に対する意見交流を行った。交流後は、完成したシートを基に、田北先生から課題解決のためのポイントとなる視点や、連携の具体案など、様々なヒントを示唆していただいた。参加者からは今後の業務へ生かそうという意欲の高まりを感じる感想が多く寄せられた。



【広報講座　意見交流の様子】

参加者の声

【基礎講座】
▶社会教育に関する基本的な知識の習得や他市町村職員の方々との意見交換ができ、とても学びがあった。
【広報講座】
▶すぐに使えそうな方法が学べた。明日から広報の方法が変わる気がする。

◎成果△課題

◎リレー形式のミニ講話やレクリエーションの演習、ワールド・カフェ方式の対話、オンラインツールを使っての意見交流など、バリエーションに富んだ構成が、参加者の高い満足度につながった。
△参加対象者のニーズに沿った研修内容の検討（これまでにファシリテーション、広報、合意形成についての研修を実施）

【実施期日】
《基礎講座》令和7年6月17日(火)
《広報講座》令和7年7月18日(金)
【実施場所】
福岡県立社会教育総合センター
【参加者数】
《基礎講座》54名 《広報講座》56名
【主な参加者】
社会教育・生涯学習関係職員
(県行政・市町村行政職員等)
【担当】
福岡県立社会教育総合センター
社会教育振興室調査・研修班
☎:092-947-3512

はじめてチャレンジ！ドキドキキャンプ

事業目的

◆豊かな自然の中で五感を刺激し、様々な人や自然と関わりながら体験活動を行うことで、自立心や協同性、規範意識を育み、小学校入学の準備をする。

活動内容

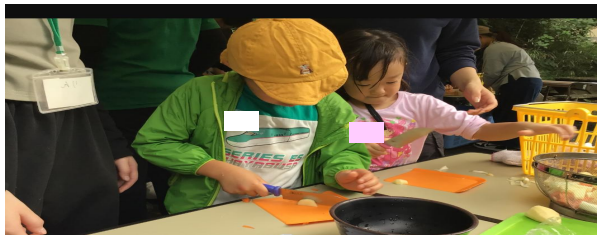
《野外調理　～みんなでつくろうカレーライス～》
◇役割分担をして、カレーライス作りを頑張ろう
→かまど係とカレー係にわかれて野外調理に挑戦した。鉈だけでなく包丁・ピーラーも初めて使うという子が多く、火の管理や刃物の扱い方など安全管理に気をつけ、怪我なくおいしいカレーを作ることができた。
《ひかりとこころのつどい　～ぽかぽかキャンドルナイト～》
◇小学校で自分が頑張りたいことを考え、発表しよう。
→キャンドルランタンを囲み、落ち着いた空間の中で、小学校で頑張りたいことを発表した。最初は発表できなかった参加者も、友だちの発表を聞いたり、ボランティアのサポートを受けたりすることで、発表できるようになっていた。
《名前を書いて、名前をきいて　～名前でビンゴ大会～》
◇自己紹介をした友だちのビンゴカードに名前を書いて、ビンゴを達成しよう。
→鉛筆の持ち方と名前の書き順の練習をした後に、「名前でビンゴ」に取り組んだ。最初は自分から声をかけられなかった子たちも、ビンゴができ始めると、全部埋めたいという気持ちで自分から声をかけていく様子が見られるようになっていた。
《裏山の冒険　～裏山でクイズハンター～》
◇裏山を散策し、看板探しと３つの問題に答えよう。
→裏山に設置されている看板を探す活動と、グループで取り組む３つの問題（班の友だちの名前を言おう・『１年生になったら』みんなで歌おう・同じポーズで写真を撮ろう）に協力して取り組んだ。

関係者の声

【保護者アンケート】
▶Instagram で活動している写真を見ることが出来たこと、ボランティアが多く参加していることで安心することができた。
▶こどもの成長を感じ、次のキャンプにもぜひ参加させたい。また、ボランティアへの憧れも芽生えたため、将来、ボランティア活動に参加してほしいと思った。

◎成果△課題

◎募集 56 名に対して、応募数が 110 名あり、需要のあるキャンプであることが確認できた。
◎保護者アンケートの評価 3.8/4 であり、参加者の成長を感じられるキャンプになった。
△参加者 1 名にボランティア 1 名配置しているため、ボランティアが欠席した場合、対応が難しい。人数を増やす等を検討していく必要がある。



【野外炊飯の様子】



【名前でビンゴ大会の様子】

【実施期日】
令和７年９月 20 日(土)～21日(日)
令和７年 10 月 18 日(土)～19日(日)
【実施場所】
福岡県立社会教育総合センター
【参加対象】
年長児28名ずつ
【参加費】
3,500円
【運営スタッフの人数】
職員4人　ボランティア 28 名
【担当課】
福岡県立社会教育総合センター
体験活動推進班
☎:092-947-3511

体験活動×ワンヘルス推進事業

事業目的

◆自然体験活動を通して自然に親しみ、自然への興味・関心を高めるとともに、ワンヘルスに対する基礎的な知識の習得と理解の推進を図り、日常生活においても自然環境と共生しようとする態度を養う。

活動内容

①《ひこさんジュニアキャンプ》
◇ひこさんハイキング◇木のメダルづくり◇ひこさんピザ作り
→散策や木工工作、野外調理を通して自然の素晴らしさを体感し、自然への興味を深めることができた。

②《ひこさんミドルキャンプ》
◇星空教室◇ワンヘルス学習◇ワンヘルス散策ツアー
→仲間と協力して活動することを通して、協力することの大切さや、自然と人とのつながりを学ぶことができた。

③《ひこさんパワーアップキャンプ》
◇英彦山散策ツター◇ワンヘルス講座◇星空教室◇ヒコロゲイニング
→英彦山の自然に触れながら様々な体験活動を行うことで、自然の偉大さや雄大さを存分に感じることができた。

④《体験して学ぼう！グリーンプロジェクトキャンプ》
◇フォレストアドベンチャー体験◇川の生き物と環境保全◇地産地消クッキング◇環境学習
→ワンヘルス講習後、実際の自然の現状を現場に行き調べ、五感で感じる活動を通して、自然の良さと自然環境が直面する危機について学ぶことができた。

関係者の声

【参加者】
▶自然の中でたくさんの仲間と学べる体験はとても貴重で楽しい時間だった。
▶ゴミが与える環境への影響、人への影響はとても重大な問題だと学ぶことができた。

◎成果△課題

◎小学校から社会人に至るまで、発達段階に合わせて自然体験プログラムを設定することができた。また、参加者に自然の大切さや人とのつながりについて理解を深めることができた。
△今後は、日常生活に落とし込むことも視野に入れたプログラムの展開を考えていきたい。



【木のメダルづくりの様子】



【川の生き物と環境保全の様子】

【実施期日】
①9月6日(土)～7日(日)
②6月7日(土)～8日(日)
③10 月 4 日(土)～5 日(日)
④9 月 27 日(土)～28 日(日)
【実施場所】
福岡県立英彦山青年の家
【参加対象】
①小学 1･2 年生　②小学 3･4 年生
③小学校 5･6年生、中学生　④高校生以上
【参加費】
各回 3,000 円程度
【運営スタッフの人数】
4人
【担当課】
福岡県立英彦山青年の家　研修課

思い出サマーフェスタ

事業目的

◆魚釣り･海水浴･カヌー体験といった夏ならではの体験活動を通じ、家族の夏の思い出作りの機会とする。


【カヌーの様子】


【魚釣りの様子】

活動内容

《海活動》　３つの活動から２つの活動を選び、前半・後半で活動を行った。

◇カヌー

→全体指導後、１艇につき１人スタッフを配置し、活動を実施。監視の体制を整え、家族でカヌーの体験を安全にすることができた。

◇海水浴

→全体指導後、海中監視４人、水際監視３人を配置し、活動を実施。未就学児もいたため、浅めの場所で活動させるために、ブイロープの位置を配慮した。家族で海水浴を楽しむ姿や、砂浜で砂遊びをする姿が見られた。

◇釣り

→釣りの経験がない参加者が多く、エサのつけ方、投げ方の指導を、家族ごとに分かれて実施。エサのつけ方や投げ方を覚え上達する姿が見られた。また、家族で協力して活動できていた。

《アイスづくり》

◇手作りアイス作り

→アイスの材料が入った袋を振り、家族で協力して手作りアイスを作る活動を実施。家族で協力して活動し、自然と会話が増えていた。

関係者の声

【ボランティア】

▶海活動の危険を知り、安全に活動するための声掛けの大切さを学んだ。

【参加した子ども】

▶初めてで不安だったが、スタッフやボランティアが分かりやすく教えてくれて楽しく活動できた。

◎成果△課題

◎午前中の海活動を前半・後半で分け、それぞれ１時間程度時間を確保し、海活動を充実することができた。また、監視体制をしっかり行い安全に活動できた。

△９：００受付開始、１０：００海活動開始と、海活動の準備をする時間が短く、スタッフ（ボランティアを含む）の負担が大きかった。

【実施期日】
令和７年7月27日(日)

【実施場所】
少年自然の家「玄海の家」

【参加対象】
小･中学生を含む家族 25 家族 100 人

【参加費】
1,100円(幼児790円)

【運営スタッフの人数】
4人(ボランティア 13 人)

【担当課】
福岡県立少年自然の家「玄海の家」
☎:0940-62-2511

様式８

主催　福岡県青少年教育４施設連携協働実行委員会（主管　福岡県立英彦山青年の家）　　【県立社会教育施設における事業】

ふくおかきっずアドベンチャーキャンプ

事業目的

◆福岡県内に住む小学校4～6年生の児童を対象に、各青少年教育施設での特色を生かしたプログラムの経験を通して、自尊感情や向上心、困難に立ち向かう心等を伸ばし、自律的に成長するための基礎を養います。



【海浜活動の様子】



【「ヒコロゲイニング」の様子】

活動内容

①《ファーストキャンプ》
◇仲間づくりプログラム◇社教アドベンチャープログラム◇野外炊飯（カレー）
→仲間づくり活動を中心に行い、グループのメンバーが積極的にコミュニケーションを取り、課題を解決できる私事的風土を醸成した。
②《シーサイドキャンプ》
◇海浜ツムツム◇GRIP アクティビティ◇海水浴・海浜活動◇野外炊飯（魚さばき体験）
→ファーストキャンプで培われたグループの信頼関係をもとに、（玄海の家の）特色を生かした体験活動を実施した。課題解決に時間がかかるグループもあったが、活動後フィードバックを行い、班の目当てを意識させることで、次の活動への意欲を高めることができた。
③《フォレストキャンプ》
◇スタードームづくり◇野外炊飯（豚汁）◇ストレートハイク
→竹を使ったスタードームづくりや野外炊飯など、屋外活動を基本として困難に立ち向かう心を伸ばす活動を行った。どの活動もグループでの声掛けや役割分担が重要であり、信頼関係の充実につながった。
④《マウンテンキャンプ》
◇英彦山の自然を学ぼう◇野外調理（ひこさんドリア）◇英彦山トレッキング
→各プログラムにおける職員の支援を最小限にし、参加者が自分たちで考え、動く、これまでの集大成のキャンプとして行った。

関係者の声

【参加したこども】
▶火おこしに時間がかかっていたけど、４回目には簡単にできるようになった。
▶改めて努力することの大切さやあきらめないことの大切さがわかった。

◎成果△課題

◎全 4 回の活動を通して、自己効力感、感情調整、親和性、他者理解が向上した。（レジリエンス尺度調査により）
△こどもたちの関係性をより深めるため、スタッフの声掛けやプログラムの新規開発が望まれる。

【実施期日】
①8月30日～31日 ②9 月 13 日～14 日
③10 月 11 日～12 日 ④10 月 25 日～26 日
【実施場所】
①福岡県立社会教育総合センター
②福岡県立少年自然の家「玄海の家」
③国立夜須高原青少年自然の家
④福岡県立英彦山青年の家
【参加対象】
小学校４年～6 年生
【参加費】
各回 3,000 円程度
【運営スタッフの人数】
各回 10 名程度
【担当課】
福岡県立英彦山青年の家 研修課
☎:0947-85-0101

電子書籍団体利用サービス

事業目的

◆多様でアクセシブルな電子書籍サービスを活用し、子どもや読書に困難を抱える人の読書機会の拡大と支援を目的とする。

サービス内容

《電子書籍活用のメリット》
◇タブレットで学校での朝読や昼休みの読書時間、授業の資料として活用できる。
◇個人が所有するデバイスからも利用でき、余暇活動のほか通学時間等のスキマ時間で読書が楽しめる。
◇人間関係や性の悩みなど、他者と共有しにくいテーマは電子書籍の方が利用しやすい。

《サービスを利用できる団体》
◇当館の電子書籍サービスを利用して、子どもや読書に困難がある人の読書活動の支援を希望する団体
→学校のほか、フリースクール、放課後児童クラブ施設等も対象、令和７年度現在、59 団体が利用している。

《利用可能な電子書籍の種類》
◇読み物、絵本、調べ学習に役立つ資料、学習・資格取得用参考書、受験用問題集、オーディオブックなど
→外国にルーツのある人、活字による読書が難しい人向けのものなども可能な限り収集・提供している。
→クラス全員で一斉にアクセスできる、同時アクセス無制限コンテンツを一部導入し、利便性を向上させた。

《サービスの利用方法》
◇団体からの申請により、当館がアクセス用 ID とパスワードを発行、電子書籍の貸出・閲覧ができる。
→ID 等は申請から 10 日程度で発行、届いた日から電子書籍を読むことができるようにした。また、紛失に備え、ID に個人情報を紐づけないことも安心感につながった。
→電子書籍サービスに対する理解を進めるため、求めに応じて団体や関係機関等に対する説明会を行うほか、個別に利用に関する助言や疑問の解消を行ったことで、ほとんどの団体がスムーズに利用している。

関係者の声	◎学校で買えない本もあり助かる。 ◎本の管理が不要で便利。 ◎団体のＰＲにも活用している。	**◎成果△課題**	◎継続を希望する団体が増えている。 △人気コンテンツの予約待ちが長い。 △コンテンツ数増加の要望が多く、対応できていない。



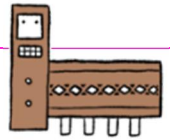
【サービストップページ】



【本棚の例】

【提供する電子書籍サービス】
福岡県立図書館 電子図書館2号館
【対象】
児童、生徒、教職員など
【利用可能コンテンツ数】
約 13, 000 タイトル
【担当】
福岡県立図書館資料支援室
☎:092-641-1140

スクール・ミュージアム事業アートコース



事業目的

◆様々な学習プログラムをとおして、児童生徒に新たな作品の見方や感じ方を気付かせるとともに、文化施設利用のマナーを自覚させることを目的とする。

☞活動内容

学校と美術館の担当者が事前打合せを行い、学年や実施人数、滞在時間、当日開催している展覧会の内容や児童生徒の実態等を考慮しながら、各学校に対応した学習プログラムを提供した。

◯美術館紹介／鑑賞マナー（美術館の施設や鑑賞マナーについて学ぶ）
◯作品の解説（展覧会について、作品の見方などを学ぶ）
◯作品の鑑賞（会場内で担当者よりポイントを絞って説明）
◯自由鑑賞（ワークシートを用いてテーマをもって鑑賞する）
◯ワークシートの共有（テーマについてグループで共有する）
◯学習のまとめ（学んだこと、感じたことを共有する）





【ワークシート】



【作品の説明を聞いている様子】



【自由鑑賞の様子】

関係者の声

【参加児童・生徒】
▶作品からいろんな感情を読み取ることができて、静かなのに活気にあふれた絵がとてもよかった。
▶最初は楽しい所でなく、静かで固い空気が漂った場所と思ったが、何百点もの作品がすべて違うエネルギーというか色、形をしていて、見ていて楽しかった。

【引率教員】
▶４年生の子どもには美術館は難しいかなと思っていましたが、実際に体験すると、絵画の世界に引き込まれていた。

◎成果△課題

◎作家(鬼塚勝也氏)や学芸員から作品や展覧会に込めた思いを直接聞くことができた。
◎３～９種類のワークシートのテーマを各学校の担当者と児童生徒の実態、展覧会の内容に合わせて決めたことで、児童生徒、教職員ともに主体的な姿勢で鑑賞活動を行うことができた。
△展覧会に合わせたプログラムや、学校で活用できるプログラムについては継続的な検討と修正が必要である。また、HP にプログラムや学習プリントを掲載し、利便性の向上を図ることを検討する。

【実施期日】
令和7年5月2日～令和8年1月21日
【実施場所】
福岡県立美術館
【参加対象】
県内の公立小・中・義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の児童生徒及び教職員
【参加費】
無料（交通費、観覧料等は一般財団法人福岡県教職員互助会が負担）
【担当課】
福岡県立美術館 普及課
☎:092-715-3551

おもしろサイエンスフェア



事業目的

◆日常生活の中に根付く科学的現象をもとにした、サイエンスショーや科学工作、特設の展示物などの体験を通して、県民への科学教育の普及・振興、特に青少年の科学への興味と関心を高め科学する心を培う。また、知性豊かな創造性に満ちた人材を育成することを目的とする。



【科学工作教室の様子】



【スペシャルサイエンスショーの様子】

活動内容

《スペシャルサイエンスショー》
◇日常生活の中で感じる不思議な現象にフォーカスしたショーと体験
→日常生活の中の不思議な現象を、原理の説明を含んだショーとして観覧し、ショーの後には実際に触るなどして体験してもらい、お客様の科学への興味・関心の高まりが見られた。
《特別展示室での体験コーナー》
◇空気砲まと当て　◇すっとびロケット飛ばし　◇色当てチャレンジ（光の波長と色の関係）　◇うずまき装置
→それぞれのコーナーで体験をする中で見つかった課題を、試行錯誤しながら科学的根拠に基づいて解決しようとする姿勢が見られた。
《科学工作教室・葉脈標本ハーバリウム》
◇葉脈標本のハーバリウム作製
→ヒイラギモクセイの葉脈標本を染色し、小瓶の中にハーバリウムオイルと共に封入した工作物を作製した。作製を通して、葉脈の成り立ちを学ぶ機会となった。
《クイズラリー》
◇クイズラリー（展示コーナーに設置）
→科学館内の各展示物に関連したクイズを各所に設置し、展示物の中のヒントを参考にクイズに答えてもらった。科学的な知識が身につくと共に、親子などで会話しながらクイズを解くことで興味・関心が高まった。

関係者の声

【ショースタッフ】
▶お客様に楽しんでもらいながら、科学にも興味を持ってもらうことができた。
【参加した子ども】
▶たくさんの体験をすることができて楽しかった。
▶科学についてなんでだろう？と思うことも調べてみようと思った。

◎成果△課題

◎多くのお客様に、体験を通して科学に興味・関心をもっていただくことができた。
◎スタッフ一人一人が臨機応変に行動してお客様に対応することができた。そのため、客様の満足度が高いイベントにすることができた。
△整理券配付の定員ありのイベントは、希望するお客様が参加できないこともあるため、来館者が隔てなく参加できるイベントの検討が必要である。

【実施期日】
令和７年11月22日～24日
【実施場所】
福岡県青少年科学館
【参加対象】
制限なし
【参加費】
無料（ただし入館料は別）
【運営スタッフの人数】
25名
【担当課】
福岡県青少年科学館
☎:0942-37-5566